

2030 あらお 有明 優都 戦略 事業

高校生とカいっばい楽しくプレイ！

～タグラグビー教室～

3月5日から26日までの毎週土曜日、計4回に渡ってタグラグビー教室を開催しました。4回とも好天に恵まれ、市内の各小学校から40人以上が参加しました。高校生と子どもたちは、笑顔でラグビーを楽しんでいました。

12日には「ラグビーマガジン」(ベースボールマガジン社)からの取材もあり、編集長は「全国でも珍しい取り組みですね」と話していました。ラグビーマガジン5月号には参加した皆さんの集合写真も掲載されています。



▲荒高ラグビー部の皆さんの指導で、みるみる上達。はつらつとタグラグビーを楽しむ姿は、観ているだけでも楽しくなります。

少女詩人・海達公子の詩をたのしむ

～海達公子まつりとウォーク&ラリー 開催～

3月20日(日)から26日(土)まで、メディア交流館で海達公子まつり(一般社団法人海達公子顕彰会主催)が開催されました。20日には開会行事として式典と公募作品の表彰が行われました。公募作品のうち自由詩の部・海達公子大賞には、緑ヶ丘小学校2年(当時)の藤木日陽里さんの作品「ヤモリ」が選ばれました。また、21日(月・祝)には、海達公子文学散歩道ウォーク&ラリーが開催されました。雨の中でしたが、参加者は詩を味わいながら歩いていました。



▲開会行事の中で、曲がつけられた「夕日」「ばら」を荒尾キッズコーラス隊が披露。メロディに乗ると、詩はまた違う表情を見せます。

より多くの人に愛される施設をめざして

～市民体育館バリアフリー化に～

障がいのある人たちに、市民体育館でスポーツを楽しんでいただけるよう、正面玄関へのスロープの設置と多目的トイレの整備を行いました。バリアフリー改修工事は、熊本県の補助事業を活用することで実現しました。

工事の完成を記念して3月19日(日)、ニチレクボール大会を開催。障がいのある人約30人が参加しました。車いすで参加した松村茂行さん(向陽台写真1)は、「トイレが広くて使いやすかった。今後はスポーツを楽しみたい」と話していました。



▲1_館内のトイレに設置された多目的トイレ 2_入口に造られたスロープ。より多くの人々が利用しやすい体育館になりました。

荒尾の元気、被災地まで届け！

～第9回あらお梨の花元気ウォーク～

4月2日(土)、観光物産館を起点に、あらお梨の花元気ウォークが開催されました。東日本大震災を踏まえ、オリンピックイベントは中止されましたが、前畑市長らの「被災地まで荒尾の元気を届けよう」という挨拶をうけ、およそ500人の参加者は、梨や桜が沿道に咲くコースを元気に歩きました。中間地点のふるさと自然公園では、万田坑炭だご汁がふるまわれました。また、設置された東日本大震災のための義援金募金箱には約6万円が集まりました。



▲福岡など県外から参加したこのご家族は、何度も参加しているそうです。楽しく歩き、おいしくボリュームたっぷりのだご汁に舌鼓を打ちました。

宝の海有明海で、タコ掘りを楽しむ

～清里元気づくり会 タコ掘り大会～

4月3日(日)、牛水海岸でタコ掘り大会が開催されました。この大会は清里元気づくり会健康部会が主催し、平成20年から長洲牛水漁業協同組合と合同で開催されています。当日はお年寄りから子どもまで約100人が参加しました。はじめ30分間は荒尾の宝・有明海をより美しくするため海岸清掃が行われました。その後、漁場まで500mほど干潟を歩き、全国でも珍しい砂の中に隠れたタコを掘るという「タコ掘り」をおおいに楽しみました。



▲名人の手を借りながら、タコが掘れました。荒尾以外では「タコ」は「釣る」ものだそう。「掘る」タコ漁の楽しさは荒尾でしか味わえないかも？

未来を担う子どもたちへ 奨学金交付

～荒尾市三光育英会奨学金交付式～

4月4日(月)、市長公室で荒尾市三光育英会奨学金交付式が行われました。この育英会は、昭和34年に当時の三光化学株式会社社長の故・安田理雄氏から、奨学資金寄付の申し出を受けて同年4月に発足しました。同奨学生は市内在住で高校・高等専門学校への進学を希望する各中学校長の推薦生徒の中から選考され、毎年4人が認定されています。これまでに同社のご厚意により、244人の奨学生が進学することができました。



▲本年度奨学金を受ける14人の奨学生を代表して、有明工業高等専門学校の津村伸一さんがお礼のことばと抱負を述べました。